

認知症の終末期ケアを考える ～死生観を見つめて～



食べられなくなったらどのようなケアが望ましいのか。一旦開始した胃ろう栄養法を終了して看取ることとはどのようなことか。高齢者ケアにおける摂食困難は、自分や家族のこととして誰もが体験する、超高齢社会の悩ましい問題です。日本人の死生観を踏まえた自然な看取りのあり方とは？医療技術による豊かさを享受し、かつ、技術にしばられず、その人らしい人生が完結できるような医療のあり方とは？一緒に考えてみませんか。

●日時：2011年12月4日(日) 午後1時～5時

●会場：東京大学安田講堂 (会場地図は裏面をご覧ください)

●主催：日本老年医学会

共催：日本老年社会科学会、日本老年看護学会、日本老年歯科医学会、
日本老年学会、東京大学死生学・応用倫理センター

*このシンポジウムは、厚生労働省老健局の国庫補助による事業です。

プログラム(概要)

●開会の辞 甲斐一郎 (東京大学教授、日本老年社会科学会前理事長、本事業ワーキンググループ代表)

●第1部：シンポジウム

「人工栄養法と看取り医療」

座長：鳥羽研二 (国立長寿医療研究センター病院長、
日本老年医学会理事)

甲斐一郎 (東京大学教授、
日本老年社会科学会前理事長)

講演1：下山和弘 (東京医科歯科大学教授、
日本老年歯科医学会理事)

講演2：堀内ふき (佐久大学教授、
日本老年看護学会副理事長)

講演3：鈴木 裕 (国際医療福祉大学教授、
PEGドクターズネットワーク理事長)

講演4：樋口範雄 (東京大学教授、厚労省「終末期医療の
決定プロセスガイドライン」座長)

指定発言：飯島 節 (筑波大学教授、
日本老年医学会倫理委員会委員長)

●第2部：鼎談

「ひとりの生活者として生老病死を思うとき」

大内尉義 (東京大学老年医学教授)

島蘭 進 (東京大学宗教学教授)

清水哲郎 (東京大学死生学特任教授)

モデレーター：

会田薫子 (東京大学死生学・応用倫理センター特任研究員)

*当日、「高齢者ケアと人工的水分・栄養補給法に関するガイドライン」原案を提示し、シンポの参加者からご意見をいただく予定です。

●閉会の辞：大内尉義 (東京大学教授、日本老年学会・日本老年医学会理事長)



「老年医学会シンポジウム事務局」

E-mail ronen@placer.jp

FAX 03-5337-7962

上記E-mailかFAXでお申し込みください。

受付は、先着順となりますので、お早めにお申し込みください。
ご当選の皆様には後日参加票をお送りいたします。

E-mailでお申し込みの方は下記参加申込書の添付、または1～8を明記のうえ、件名を「老年医学会シンポジウム申し込み」としてお申し込みください。

老年医学会シンポジウム 参加申込書

1. 代表者氏名			
2. 所属			
3. 同行者氏名			

参加表・資料送付先及びご連絡先

4. 宛先名	
5. 住所	〒
6. TEL	
7. FAX	
8. E-mail	@
9. 備考	

※今後、本事業関係の研究会やシンポジウム等のお知らせをお送りしてもよろしいでしょうか。
右のいずれかに○印をつけてください。(可 不可)

※お送りいただいた情報は、今回のシンポジウムに関する目的以外では使用しません。

※会場内での撮影、録音等はできませんのでご了承ください。

※お申し込み後のキャンセルは下記事務局までご連絡をお願いいたします。

■本シンポジウムに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

老年医学会シンポジウム事務局

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-17-15 トーヨービル5F (有)プラセル内

TEL 0120-971-145 FAX 03-5337-7962

E-mail ronen@placer.jp

